

第1学期学校評価アンケート結果の考察

1 児童アンケートより

- ・全体的に家庭学習の時間と読書時間が少なく、ゲームやインターネットに費やす時間が多い傾向にあり、学習習慣の定着不足が課題である。

特に宿題や自主勉強への取組について否定的な児童が多い。

- ・あいさつができていると回答した児童は多いが、地域の方へのあいさつや声の大きさなどに課題を感じている。
- ・自分にはよいところがないと感じている児童が、高学年になると増える傾向にある。
- ・地域行事には、積極的に参加している児童が多い。

2 保護者アンケートより

- ・児童の評価と同様、学習習慣の定着不足とゲームやインターネット使用時間の多さが課題である。
- ・あいさつができていると感じている保護者が多い。
- ・「早寝・早起き・朝ご飯などの基本的な生活習慣」の肯定率は高いが、一部に未定着の児童も見られる。学習意欲や体調面にも関わるため、児童への声掛けや家庭との連携が必要である。
- ・教職員に関する項目、学校に関する項目については、好意的に捉えていただいている。

3 教員アンケートより

- ・児童の評価や保護者の評価と同様、学習習慣の定着不足とゲームやインターネット使用時間の多さに課題を感じている。
- ・友達を大切にする心の育成には、まだまだ課題があると感じている。保護者の評価との差が大きい。
- ・生徒指導に関する教職員間の情報共有は十分行っている。
- ・「教職員に関する項目」の評価内容に工夫が必要である。

アンケート結果を受けて2学期以降の対策

- ① 宿題の量や質を工夫し、児童が家庭学習の達成感を得やすい内容とする。
- ② 学級活動で情報モラル教育を行い、ゲームやインターネットに費やす時間を考えさせ、生活習慣とのバランスをとるようにさせる。保護者に対しても、メディア利用時間と学習・読書習慣のバランスの大切さを啓発する。
- ③ あいさつの先取り活動を今後も徹底し、習慣付ける。適切な声の大きさについても指導を継続する。
- ④ 今後も、保護者や地域の人材、自然を有効に生かして、地域と連携し、地域の良さを感じられる教育活動を展開する。
- ⑤ 体験活動や集会活動を通して、自分のよさや個性を大切にする心を育てる。